

ナス販売県内JAトップ

なす部会共販実績検討会

本JAなす部会は12月10日、本店で平成30年度なす部会共販実績検討会を開きました。今年度の販売実績は8,900万円(10月31日現在)で県内JAでトップの実績となりました。

今年度は7、8月の猛暑による落花や病害虫の発生などが原因で、前年比91%と出荷数量が伸び悩みました。

仙台中央青果卸売株式会社の千葉光一課長は、出荷規格を変更して2年目になることに触れ「数量は天候に左右されるが、古川なすは品質管理が徹底している。変更した出荷規格が実需や消費者に定着し、単価は昨年を上回った」と話していました。

渡邊正彦部会長は、猛暑が続き、病害虫の発生が年々早まっていることに触れながら「例年通りの栽培管理では対応が遅れてしまうので作物をよく観察し、防除などのタイミングを見計らうことが大切。販売高1億円突破を目指し、新規栽培者や作付面積拡大が必要だ」と話していました。



本JAでは、ナスを重点品目に指定しており、県内JA産ナスの約50%を占めています。

児童に豆腐作りを指導

大崎市立古川第四小学校



完成した豆腐を覗き込む児童

本JAは11月29日、30日の両日、大崎市立古川第四小学校3年生143人の児童に豆腐作りを指導しました。

材料は、本JA管内産の大豆「タンレイ」を使用。水に浸した大豆をミキサーで砕き、強火で煮た後、こし袋で絞り豆乳とおからに分別。火にかけた豆乳ににがり混ぜて型に流し入れ、木綿豆腐を作りあげました。

本JA職員が「大豆からできる食べ物は知っていますか」と問いかけると、児童は「納豆」「みそ」など、さまざまな大豆食品を答えていました。

試食をした児童は「今まで豆腐は食べられなかったけれど、今日作った豆腐は食べられた。大豆の味がしておいしかった」と話していました。

本JAは食農教育の一環として豆腐作りの他、学童農園の資材助成などに取り組んでいます。

小学生が農家の仕事を学ぶ

大崎市立古川第一小学校

大崎市立古川第一小学校の3年生96人は11月27日、社会科の学習として本JAのネギ共同調整施設とネギの圃場を見学し、農家の仕事について学びました。

本JAの園芸担当職員によるネギの調整施設や生育過程などの説明を受けた後、ネギの根葉切り皮むき機「バストロボ」を使った調整作業を見学しました。また、本JAにネギを出荷している農家の圃場を訪れ、植えられているネギについても学びました。

児童は「どうして緑の葉の部分切るのか」「水やりや消毒は手作業ですか」など熱心に質問し、本JA職員が丁寧に答えました。

本JAでは、ネギを重点品目に指定し、作付け面積の拡大に努めています。



児童にネギの説明をする本JA職員